

助産師教育

NEWS LETTER



公益社団法人

全国助産師教育協議会

Japan Society of Midwifery Education

No.98 2026. 10. 1

助産師教育の未来を拓く －量の確保と質の保証、基礎教育から卒後教育へ－

公益社団法人全国助産師教育協議会 会長

札幌医科大学

正岡 経子



2026年度のニュースレターをお届けするにあたり、全国助産師教育協議会を代表してご挨拶申し上げます。周産期医療の環境は、かつてない速度で変化しています。出生数は歴史的水準まで減少し、分娩施設の集約化やハイリスク妊産婦および麻酔分娩の増加など、助産師教育の前提が揺らぎつつあります。こうした状況は、従来の教育体制を維持するだけでは立ち行かないことを私たちに突きつけています。しかし同時に、助産師という専門職の価値を再認識し、未来に向けて教育を刷新する好機でもあります。

昨年度に実施した全国調査では、学生時代の分娩介助回数だけでなく、妊娠期からの継続事例、出生直後の新生児ケア、分娩期の総合的理解といった「経験の質」が、卒後の実践能力形成と関連することが客観的に示されました。一方で、臨床現場では正常産の分娩介助10回程度の経験が年々困難となりつつあり、量的基準だけでは分娩期ケア能力の到達度を十分に評価できないという認識も広がっています。助産師教育は「量の確保」と「質の保証」を両輪として、より実践的で確かな能力形成を支える教育体制へと転換していく必要があります。

全国助産師教育協議会は、助産学CBT・OSCEの全国展開と公的化を柱に、教育の質を保証する体制を整備してきました。今年度から助産学CBTは日本助産評価機構へ移譲され、助産学OSCEも次年度の移譲に向けて準備が進んでいます。学生が臨床に出る前に必要な知識・技術・態度を客観的に確認することは、母子の安全を守るための不可欠な基盤です。教育課程や地域による学修経験の差が広がる今

こそ、全国共通の評価基盤に基づく教育の質保証が求められています。

さらに、2026年度は「将来ビジョン2030」の実装に向けた重要な節目となります。助産師基礎教育の修業年限2年の推進、コア・カリキュラムの改訂、教員の教育力保証、臨地実習の持続可能なあり方の再構築など、私たちが取り組むべき課題は多岐にわたります。加えて、麻酔分娩をはじめ医療介入のある分娩が増加する中、学生が経験する分娩の様相は大きく変化しています。基礎教育のみで助産師として求められる能力のすべてを形成することはますます困難となり、卒後教育との連動を前提とした「生涯を通じた助産師育成体系」の構築が不可欠です。そのためには、行政および助産関連団体との協働がこれまで以上に重要となります。教育・臨床・政策が一体となり、助産師がキャリアの各段階で確実に能力を積み上げられる環境を整えることこそ、未来の助産師が誇りを持って臨床に立つための基盤となります。

助産師は、看護三職能の中で唯一、分娩介助という業務独占を担う専門職です。だからこそ、何を守り、何を変え、どの未来を選び取るのか。その問いに、私たち教育者が真摯に向き合うことが求められています。超少子化という逆風の中にあっても、社会から必要とされる専門職であり続け、次世代の助産師が「助産師になってよかった」と心から思える教育を実現するために、皆さまとともに知恵を出し合い、助産師教育の未来を力強く切り拓いてまいりたいと思います。お力添えのほど、よろしくお願いいたします。

扉.....	1
教育・活動報告	2
ニュース	4
わかばの部屋	5

全助協からのお知らせ	6
トピック	7
理事会報告	9

第51回 全国助産師教育協議会 全国研修会報告書

テーマ「助産師教育と防災力 －母子を支える助産師の知と実践・災害に備える次世代教育－」

東京医療保健大学大学院看護学研究科

渡 邊 香

1. 研修受講状況

第51回全国研修会は、令和8年2月14日（土）にオンライン（Zoom）で開催した。近年、自然災害が頻発・激甚化する中、妊産婦や乳幼児を含む母子への支援体制の充実と、防災の視点を踏まえた助産師教育の重要性を共有することを目的として企画した。

参加申込者数は351名であった。参加者アンケート回答者数は、講演1が250名、講演2が251名、シンポジウムが248名であった。

2. 研修会内容（テーマ）と講師

1) 講演1

「災害時における人の移動：避難行動を対象に」 東京大学先端科学技術研究センター 教授 廣井 悠 先生

2) 講演2

「災害時における母子支援：助産師の役割と実践」 日本赤十字社医療センター 助産師 中根 直子 先生

3) シンポジウム

「“誰一人取り残さない” 避難所を目指して一女性と子どもの命を守る助産師の役割－」

①災害時における妊産婦・乳幼児等に対する支援について

こども家庭庁成育局母子保健課 母子保健指導専門官 齋藤 綾子 先生

②熊本地震における保健活動の実態

熊本市北区役所保健福祉部保健こども課 課長 山本 三枝 先生

③女性／ジェンダーの視点から見た避難所運営における課題と対応のあり方

減災と男女共同参画研修推進センター協同代表 浅野 幸子 先生

④災害支援の現場から学ぶ避難所支援

東京科学大学病院周産女性診療科 副看護師長 高村 ゆ希 先生

3. アンケート結果

各講演およびシンポジウムについて、回答者のほぼ全員が「大変有意義だった」または「有意義だった」と回答した。シンポジウムについてののみ1名が「どちらともいえない」と回答したが、全体として非常に高い評価を得た。

自由記載では、「避難の三大論点について考えさせられた」「避難訓練のあり方を見直す機会となった」「支援者自身の備えの重要性を実感した」「災害ナースに興味を持った」「避難所での女性リーダーの必要性を理解できた」などの意見が寄せられた。

4. 研修会総括

本研修会では、避難行動に関する最新の知見、災害時の母子支援の実践、行政・地域・医療現場における防災活動など、多角的な視点から災害と助産師の役割について学ぶことができた。参加者からは高い満足度が示され、防災教育や災害対応能力向上への学習ニーズの高さがうかがえた。

今後は、平時からの備えや地域との連携を含め、災害時に母子を支える助産師の実践力と教育力をさらに強化していく必要がある。本研修会で得られた知見を助産師教育および臨床実践に活かしていただくことを期待したい。

最後に、ご講演いただいた先生方、ご参加いただいた皆様、ならびに開催にご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

2026年度 第17回（通算62回） 公益社団法人 全国助産師教育協議会定時社員総会 開催報告

2025－2026年度 全国助産師教育協議会副会長
奈良県立医科大学 五十嵐 稔 子

2026年6月27日（土）・28日（日）に、第17回（通算62回）定時社員総会および研修会をオンラインで開催いたしました。

総会開会の冒頭では、正岡経子会長から、助産師教育が周産期医療の構造的変化のなかで、分娩期実習の機会の確保と、助産師の役割の高度化への対応という二つの課題を同時に迫られ、両立が問われる岐路にあること、当協議会は助産学共用試験CBT/OSCEの全国展開・公的化や「助産師教育における将来ビジョン2030」など、全国的な質保証の仕組みを整えながら、超少子化のなかでも社会に必要とされる専門職教育の未来を、会員校とともに切り拓いていくことが述べられました。続いて、ご来賓挨拶として、文部科学省の加藤治実様から「看護系大学の現状と課題～助産師教育の動向を含めて～」、厚生労働省の内田愛子様から「看護行政の動向と助産師教育への期待」、こども家庭庁の尾川春香様から「母子保健の動向と助産師の役割」のご講演をいただきました。

総会では、議長に服部律子氏（奈良学園大学）、議事録署名人に濱寄真由美氏（宮崎県立看護大学）、今村朋子氏（愛媛県立医療技術大学）が選出されました。会員総数340名のうち議決権行使書281名の提出により、定款第30条に基づき総会が成立していることが報告されました。報告事項では、2025年度の委員会等活動報告、地区別活動報告、第51回全国研修会報告に続き、2026年度事業計画および収支予算について説明が行われました。決議事項は、2025年度事業報告、2025年度収支決算および監査報告、「助

産師教育における将来ビジョン2030」の改訂、役員選挙管理規程の一部改正の4議案で、いずれも賛成多数により承認されました。

研修会では、前日本看護協会の井本寛子様より「訴訟事例からみえる助産師のリスクマネジメント・賠償保険の必要性」についてご講演いただきました。2日目は、日本助産評価機構の村上明美様より「助産師教育の質保証と助産学共用試験（助産学CBT）」、永松美雪理事より「助産師教員キャリアラダーレベルⅢ認証制度」について報告があり、最後に教育講演として、大阪大学の浦田悠様より「教育現場でのAIの活用方法」をご講演いただきました。最後に、安達久美子副会長が閉会の挨拶を述べ終了いたしました。

終了後のアンケート（204件の回答）では、総会・研修会の総合的な満足度について「満足」「とても満足」が合わせて97.1%、研修内容を「活かせる」「十分に活かせる」との回答が合わせて95.6%と、高い評価をいただきました。自由記述では、オンライン開催であれば平日×2日ではなく1日への集約を望む声、報告事項の簡素化に関するご提案、対面・ハイブリッド開催による会員間の交流機会を求めるご意見等が寄せられました。また、今後取り上げてほしいテーマとして、助産学CBT・OSCE、AIの教育活用、無痛分娩などが多く挙げられました。いただいたご意見は、次年度の企画・運営に活かしてまいります。

ご参加いただきました会員の皆様、ならびにご講演を賜りました先生方に、心より御礼申し上げます。

NEW 教育用分娩監視装置
モニトレ CTG

CTG判読の教育用のアプリ



直感的な操作でかんたん操作。
波形を描いてオリジナルの事例を
作成することも可能です。

沐浴人形Ⅱ
ケンとリカ NEW

かわいさはそのままに、新素材で柔軟性がアップ



清拭やおむつ交換で、自然な
体位を取ることができます。

ものづくりで教育に感動を
KYOTO KAGAKU <https://www.kyotokagaku.com/jp/>

新製品の情報はこちら 

助産師教員キャリアラダー・レベルⅢ認定制度について

組織強化委員会理事

日本赤十字九州国際看護大学

永 松 美 雪

私は2021年～2026年度に組織強化委員会理事を務めさせていただいています。2021年に日本助産評価機構によるCLOCMiP レベルⅢのアドバンス助産師の認証において「教員」区分の申請が廃止され、助産師教員の教育力の向上・保証を図るための対策の必要性から本協議会では、助産師教員キャリアラダーに基づく助産師教員の教育力を保証するためのキャリアラダー認定制度の設立が決定しました。2022年に会員の皆様のご協力を得て調査を実施し、助産師教員キャリアラダーに基づく助産師教員の能力を明らかにしました。

助産師教員キャリアラダーに基づく助産師教員の能力を認定するために認定制度の規程と細則を作成しました。この制度の目的は、助産師教育の更なる質の向上と推進を図ることにより、助産学の進歩を促し、その水準を向上させ、社会の福祉に貢献することです。本協議会は、この目的を達成するため、助産師教員キャリアラダー・レベルⅢ以上の能力を有しているエキスパート助産師教員を認定します。エキスパート助産師教員とは、助産師教員キャリア

ラダーに含まれる能力である臨床能力・教育能力・研究能力・管理能力を総合的に有し、リーダーシップを発揮できる者です。教員公募や上位職登用における公募要領の応募資格に、「助産師教員キャリアラダー・レベルⅢの認定を受けた者」と示すことで、質の高い教員を採用することを期待しています。皆様、是非、認定に挑戦し、自分の能力を高めながら、その価値をアピールしましょう。

エキスパート助産師教員の認定を申請するには、細則第2条の次に定める第1項から第6項の書類が必要です。(1) 本協議会の会員校あるいは個人会員、(2) 本協議会の会費を完納、(3) 助産師免許（免許番号）、(4) 教育施設に所属する助産師教員として常勤で5年を超える経験を有することを証明するもの、(5) 助産師教育研修研究センターが開講する研修とe-learning研修の受講証：ファーストステージ研修（3単位以上）とセカンドステージ研修（2単位以上）、(6) 各能力の申請要件または免除要件を満たしていることを証明するもの（別表1参照）。

別表1 各能力の申請要件または免除要件を満たしていることを証明する提出書類

	申請要件	免除要件
臨床能力	過去5年以内のCLOCMiP レベルⅢ認証の必須研修を10時間以上受講した受講証	CLOCMiP レベルⅢの認証（期間内）
教育能力	以下を全て満たす書類 ・最新の助産学教育の授業・演習・実習の科目責任者または主たる科目担当者（授業科目がオムニバスの場合は半数以上の担当）のシラバス ・助産師教育研修研究センターが開講する実習指導者講習会、e-learning研修、公開研修等を合計3時間以上受講した受講証	該当なし
研究能力	以下を全て満たす書類 ・掲載された論文2編の写し（学術誌・商業誌に掲載された研究論文可、共著可） ・学術集会3回以上の参加証	博士の学位記の写し
管理能力	「教育理念・目標・方針を理解し、構成員としてどのように役割を担っているか」についての課題レポート（800～1000字）	教員として学長・校長・学部長・研究科長・教授・教務主任などの役職経験

助産師教育に携わる中で大切にしたいこと

香川県立保健医療大学
保健医療学部看護学科

十 河 美智子

私は、臨床助産師として19年間勤務した後、助産師教育に携わるようになり、今年で3年目です。教育の道に進んだ理由の一つは、これまでの経験から自分にも学生に伝えられることがあるのではないだろうか、助産師を目指す学生たちの力になりたいと考えたからです。実際に基礎教育の現場に入ってみて、臨地実習指導の経験はあったとしても教員としてはゼロから学ぶ必要があることを実感しました。1年目は修士課程を履修中であつたこともあり、教育や研究において目の前の課題に取り組むことに必死でした。そのような中でも、上司のサポートのおかげで、試行錯誤しながら様々な経験を積むことができました。2年目は、年間のスケジュールを見据えて授業や実習の準備に少しずつ取り組めるようになり、授業内容や効果的な教授方法について考える時間も増えました。研究では、学術集会での発表を継続し、探究して得られた最新の知見を授業に反映することの大切さを学びました。そして3年目の今は、教育や研究においてリフレクションを重ねながら学び続けている毎日です。

このように、教員としてあつという間に3年目を迎えました。現在、私が助産師基礎教育に携わるう

えで特に大切にしたいと考えていることは、助産実践能力の基盤となる姿勢や価値観について、学生自身が主体的に考え、自分なりの助産観を築いていけるような機会を設けることです。今振り返ると、教員1年目の頃は、知識や技術の修得を重視して教育に取り組んでいたように思います。しかし、学生一人ひとりの成長を間近で見守る中で、知識や技術の修得はもちろん重要である一方、それらを支える助産師としての姿勢や価値観は一人ひとり異なるものであり、学生のうちから自ら考え、自分なりの助産観を育んでいくことが重要であると実感しました。そのような学びの積み重ねは、将来、臨床現場において、一人ひとりの対象者と真摯に向き合い、その人らしさを尊重したケアを実践することにつながると思っています。そして、学生にはそのような実践ができる「心ある助産師」へと成長してほしいと願っています。

助産師教育に携わるようになってまだ日が浅いですが、これからも教育と研究を通して学び続けながら、助産師を目指す学生たちの成長に少しでも力になれるよう努めていきたいです。

助産雑誌のご案内

新しい助産師像を模索する現代の助産師、
そして妊娠・出産・育児を考える
全ての人と共に、考え、つくる雑誌です。

隔月刊(偶数月)、年6冊

通常号定価：2,090円(税込)

詳しくは
こちらから



医学書院



第18回（通算63回）公益社団法人全国助産師教育協議会 通常社員総会開催のお知らせ

2027年度の通常社員総会は、岩手県盛岡市にて、2027年6月12日（土）、13日（日）、ハイブリッド形式（現地＋オンライン）で開催いたします。

現地会場は、盛岡駅西口に隣接するキオクシアアイーナ いわて県民情報交流センターです。盛岡駅から徒歩約4分、駅から会場までは直結する通路もあり、全国各地からご参加いただきやすい会場です。

総会では、2026年度の事業・決算報告、2027年度の事業計画・予算等についてご審議いただく予定です。また、超少子化が進む中、これからの助産師教育はどうあるべきか、未来の助産師をどのように育てていくかについて、会員の皆様とともに考え、議論を深める場にしたいと考えております。

盛岡市は2023年、ニューヨーク・タイムズ紙の「2023年に行くべき52カ所」に、ロンドンに次ぐ2番目として選ばれた街です。歴史的な街並みや自然、喫茶店文化、わんこそばなど、歩いて楽しめる盛岡ならではの魅力があります。ぜひ現地にお越しの際には、総会とともに、初夏の盛岡もお楽しみください。

（全国助産師教育協議会 理事 蛸崎奈津子）

第52回全国助産師教育協議会研修会のお知らせ

全国研修会担当校 天使大学大学院助産研究科 藤井 宏子

今年度の全国助産師教育協議会全国研修会では、「出生数減少時代の助産師教育—どのようにして社会の要請に応えるか—」をテーマに、多様な立場から今日の助産師教育の課題と今後の可能性について考えます。研修会は2027年2月11日にオンラインで開催し、2部制で実施します。

第1部では、職能組織、教育、研究など、さまざまな立場から助産師教育への期待や今後の方向性についてご講演いただきます。助産師教育を取り巻く現状を多面的に捉えるとともに、教育の質保証に向けた新たな視点を共有する機会とします。第2部では、参加者同士による意見交換を行います。到達目標を実現するための教育方法や、これからの社会に求められる助産師教育について議論し、全国の教育機関や臨床現場における工夫や実践を共有します。

出生数減少という困難な時代だからこそ、全国の仲間と課題を共有し、これからの助産師教育の方向性をともに考える場としたいと考えています。日々の教育実践につながる示唆を得られる研修会となるよう準備を進めております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

包括的性教育は専門職の必修課題です！

立教大学名誉教授

浅井 春夫

包括的性教育は、子ども・若者・人間が自らの未来を歩み、人生を大切に生きるための必須の専門的教養です。教養とは、幅広い学びと体験を通してはぐくまれる知識と考察力といえます。人生において何を価値あることと考え、豊かな人間関係を創造し、幸せを探究するための座標軸（判断基準）が教養です。

教育基本法第2条（教育の目的）で「1 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」が謳われています。こうした教育の目的を担う実践領域として、包括的性教育は必要不可欠の課題となっています。しかし、残念ながら国の性教育政策は、依然として1950年代の「性教育は寝た子を起こす」という時代錯誤の認識の枠を超えていないのが実際です。

包括的性教育は、①乳幼児期から学童期・青年期、成人期、高齢期までを視野において、②性的発達のすべての局面に対応できる能力の形成をめざし、③日常生活で生じるさまざまな局面と人間関係をめぐって賢明な選択と対応ができるための学びであり、④世界や日本においても顕著になっている分断と排除を超えて、さまざまな共生が花開くことをめざしています。

現在においては性教育をしているかどうか専門職の存在証明の柱ではなく、どのような性教育を自らの実践のなかに活かそうとしているのかが問われているのです。

助産師のみなさんは、まさに包括的性教育の実践基盤を構成する専門職ではないでしょうか。女性と子どもの健康を支える実践をより豊かに発展させていくためにも包括的性教育の視点と理論に挑戦していただきたいと願っています。

8月には、『講座 包括的性教育（全5巻）』（明石書店）のうち4巻が揃い、残すは1つの巻だけとなり、今年度中には5巻が完結する予定です。包括的性教育は世界共通のテキストとなっています。助産師さんにとって、包括的性教育は性的発達と健康保障の実践をすすめていくための必修課題です。

助産師さんを身近な専門職と感じている地域住民も少なくないでしょう。人生のはじめから関わり、子どもを産むことをヘルプし、とくに女性の生涯の健康に医療・保健・教育・福祉分野の連携のなかで、人権と健康を守るうえで誰一人も取り残さない地域ネットワークづくりをすすめていくためにも国際的な共有財産となっている包括的性教育の学びにチャレンジしていただきたいと、心から願っています。

分娩介助モデル「ひろこ」

LM-114 標準価格 ¥550,000 (税別)

側臥位、四つん這いを含む正常分娩時の介助演習が可能です。会陰保護から、胎児・胎盤の観察など一連の演習ができます。下肢があるため、臨床に近い状態での演習ができます。外陰部は旧製品の物（内診モデル外陰部Ⅱ型、分娩介助モデル用外陰部Ⅱ型、裂傷縫合モデル外陰部）をそのまま使用することが可能です。

株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)393-5115
東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

***** www.kokenmpc.co.jp



© 2026 KOKEN CO., LTD.

包括的性教育の実践を支える人権・ジェンダー平等・多様性

埼玉大学学術院教授 ダイバーシティ推進センター／

人文社会科学研究科ダイバーシティ専攻 田代 美江子

「包括的性教育（以下CSE）」という言葉、そしてその重要性についての共通認識が、日本でも広がりつつあるように思います。しかし、CSEという言葉が広がる一方で、何をもってCSEとするのかについては、必ずしも十分に共有されているとはいえません。

そこで本稿では、性教育実践が何を基盤とし、何を旨とするかでCSEになり得るのか、その重要なポイントを考えてみたいと思います。

「性の権利」としてのCSEを推進するために、ユネスコが中心となって開発した『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』（以下、『ガイダンス』）では、CSEが「人権という確固たる基盤」の上に立ち、「ジェンダー平等」と「多様性」を前提とする教育であるということが強調されています。人権・ジェンダー平等・多様性は、実践がCSEになり得ているのかを確認する重要なものさしです。

たとえば、近年、若者を含めて推進されているプレコンセプションケアを考えてみましょう。妊娠・出産に関する知識は、主体的な選択のためにも重要です。しかし、将来子どもを持つことを当然の前提として健康管理を促すのであれば、多様な生き方を尊重するCSEとはいえません。CSEとして実践するためには、妊娠・出産のための身体管理にとどめず、一人ひとりの健康とウェルビーイング、そし

て「子どもを持つ／持たない」を含む生き方の選択を権利として保障する視点が不可欠です。また、妊娠・出産や健康に関する責任を個人、とりわけ女性に偏って負わせることなく、その選択を支える社会のあり方にも目を向ける必要があります。

重要なのは、健康に関する知識を伝えることにとどまらず、その知識を、自分はどう生きたいのか、妊娠・出産をどう選択するのか、その選択を可能に／困難にしている社会にはどのような課題があるのかを考える学びにつなげることです。

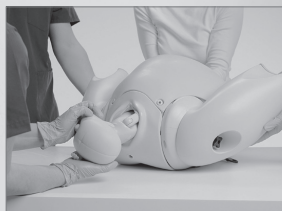
人権教育としてのCSEは、社会課題を発見し、その解決に仲間と共に挑み、社会を変革できる主体形成を目指します。そうした主体形成につなげるには、自分と他者の人権・権利に対する確かな理解を育む学びになっているのかが重要なポイントになります。

同時に、CSEを実践する私たち自身にも、自らの価値観や「あたりまえ」を問い直し、個人の生き方や選択を規定する社会のあり方を批判的に捉える力が求められます。

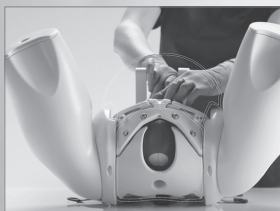
是非、みなさんが日々扱っているテーマを、人権・ジェンダー平等・多様性という視点から、仲間と共に問い直してみてください。

PROMPT Flexでシームレスな助産師教育を。

NLS 日本ライトサービス株式会社
Nihon Light Service, Inc.



分娩トレーニング



内診トレーニング



〒113-0033 東京都文京区本郷 2-3-9 ツインビュー御茶の水 2F ☎ 03-3815-2354 (直通) igaku@nlsinc.co.jp www.medical-sim.jp

公益社団法人 全国助産師教育協議会

2025年度 第1回理事会次第

日 時：2025年4月13日（日）13：00～15：15
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久真理、五十嵐稔子、太田尚子、
 小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤良子、谷口千絵、
 永松美雪、正岡経子（9名/9名）
 出席監事：井村真澄、渡邊典子（2名/2名）
 出席幹事：藤井宏子、井上理絵（2名/2名）
 陪 席：村上明美（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

1) 庶務・総務

- ①2024年度第9回理事会議事録（案）
- ②正会員1校、個人会員入会、退会1校承認
- ③令和7～8年度理事・令和7～10年度監事候補
- ④役員選挙結果に基づく候補者一覧の公示
- ⑤第16回全助協定時社員総会冊子（案）
- ⑥総会配布資料の印刷の外部委託
- ⑦助産学共用試験委員会の常設に伴う委員会運営規程改定 総会後「助産学共用試験委員会」

2) 助産師教育研修研究センター委員会

- ①特定分野実習講習会募集要項

3) 資格・専門能力委員会

- ①プール問題作成・登録活動協力員の選出依頼

4) 組織強化委員会

- ①助産師教育キャリアラダー・レベルⅢ認定の規程細則の総会での説明・報告
- ②ICM翻訳

5) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホック・プロジェクト）

- ①OSCE評価者養成研修会

III. 報告事項

1) 将来構想委員会報告

- ①コロナ禍後の助産学実習（分べんの取り扱い）と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査

2) 助産師教育研修研究センター委員会報告

3) 教育検討委員会報告

4) 広報・社会貢献委員会報告

5) 資格・専門能力委員会報告

6) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホック・プロジェクト）報告

7) 助産師教育研修研究センター委員会報告

8) 近畿地区研修会

IV. その他

- ①2026年ICM3年毎大会（ポルトガル）における5団体ブース取りやめ
- ②厚労科研の助産基礎教育の臨地実習関する教育の在り方の研究
- ③日本看護協会の「助産師基礎教育に関する検討会」開催

2025年度 第2回理事会次第

日 時：2025年5月11日（日）13：00～15：20
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久真理、五十嵐稔子、太田尚子、
 小川久貴子、蛸崎奈津子、近藤良子、谷口千絵、
 正岡経子 欠席理事：永松美雪（8名/9名）
 出席監事：井村真澄、渡邊典子（2名/2名）
 出席幹事：藤井宏子、井上理絵（2名/2名）

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

1) 庶務・総務

- ①2025年度第1回理事会議事録（案）
- ②正会員入会2校、個人会員入会、退会1校承認

③第16回定時社員総会（成立要件・冊子）

④資料送付時の個人情報保護の規定

2) 将来構想委員会

- ①コロナ禍後の助産学実習（分べんの取り扱い）と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査

3) 助産師教育研修研究センター委員会

- ①「助産実習に携わる非常勤教員の研修」小委員会の解散

4) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホック・プロジェクト）

- ①助産学共用試験テキストの完成遅延による会員校への配布

5) 東京地区地区長途中交代

6) 全国助産師教育協議会第51回全国研修会

7) 研修会の受付・運営（受講証等）の事務関与

III. 報告事項

1) 助産師教育研修研究センター委員会報告

2) 広報・社会貢献委員会報告

3) 資格・専門能力委員会報告

4) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホック・プロジェクト）報告

5) 助産師教育研修研究センター委員会報告

6) 近畿地区報告

IV. その他

- ①助産師の基礎教育の大学院化に向けた検討会議

- ②日本助産学会学術集会

2025年度 第3回理事会次第

日 時：2025年6月21日（土）16：00～16：30
 場 所：札幌医科大学教育棟（ハイブリット）
 出席理事：安達久美子、正岡経子、五十嵐稔子、鈴木康江、
 蛸崎奈津子、武田江里子、谷口千絵、永松美雪、
 森聖美、渡邊浩子（10名/10名）
 出席監事：小川久貴子、島田啓子（2名/2名）
 出席幹事：井上理絵、藤井宏子（2名/2名）
 陪 席：村上明美（助産師教育研究センター長）

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

1) 庶務・総務関係

- ①会長（代理理事）選定
- ②新理事の担当委員会決定
- ③副会長任命

2025年度 第4回理事会次第

日 時：2025年8月10日（日）13：00～15:05
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：正岡経子、安達久美子、五十嵐稔子、蛸崎奈津子、
 鈴木康江、武田江里子、谷口千絵、永松美雪、
 森聖美、渡邊浩子（10名/10名）
 出席監事：小川久貴子、島田啓子（2名/2名）
 出席幹事：藤井宏子、前田尚美（2名/2名）
 陪 席：村上明美（助産師教育研修研究センター長）

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

1) 庶務・総務

- ①2025年度第3回理事会議事録（案）
- ②個人会員入会承認
- ③理事会資料の配布方法「BOX」の変更
- ④次年度次々年度の社員総会の開催方法及び会場
- ⑤総会参加証の今後の配布方法
- ⑥外部監事について

2) 助産師教育研修研究センター委員会

- ①助産師教育研修研究センター運営委員会委員

3) 将来構想委員会

- ①将来構想委員会委員

- 4) 教育検討委員会
 - ①教育検討委員会委員
- 5) 助産学共用試験委員会
 - ①助産学共用試験委員会委員
- 6) 組織強化委員会
 - ①組織強化委員会委員
 - ②2025年度全国助産師教育協議会活動マップ
- 7) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会委員
 - ②ニュースレター印刷部数増
- 8) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会委員

Ⅲ. 報告事項

- 1) 助産師教育研修研究センター委員会報告
- 2) 教育検討委員会報告
- 3) 助産学共用試験委員会報告
- 4) 広報・社会貢献委員会報告
 - ①日本助産学会助産師学生交流集会
 - ②オレンジリボン運動
- 5) 助産師教育研修研究センター委員会報告
- 6) 庶務・総務
 - ①社員総会の報告
- 7) 資格・専門能力委員報告
- 8) 地区研修会の案内
 - ①関東甲信越地区
 - ②中国四国地区

Ⅳ. その他

- 1) 日本看護サミットへの後援名義の使用
- 2) 日本看護系大学協議会50周年記念式典等の出席
- 3) 第3回いいお産の日イベントの後援名義の使用
- 4) 全国助産師教育協議会の略称について

2025年度 第5回理事会次第

日 時：2025年9月23日（火・祝）13：00～16：10
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：安達久美子、正岡経子、五十嵐稔子、鈴木康江、
 蛸崎奈津子、武田江里子、谷口千絵、永松美雪、
 森聖美、渡邊浩子（10名/10名）
 出席監事：小川久貴子、島田啓子（2名/2名）
 出席幹事：藤井宏子、前田尚美（2名/2名）
 陪 席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事次第

Ⅰ. 会長挨拶

Ⅱ. 審議事項

- 1) 庶務・総務
 - ①2025年度第4回理事会議事録（案）
 - ②個人会員入会承認
 - ③外部理事・監事及び次年度の総会に向けた規程の見直し
 - ④将来ビジョンのための調査
 - ⑤各省庁提出の要望書（案）について
 - ⑥厚生年金保険・健康保険の加入状況の調査及び事務員の勤務時間について
- 2) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①著作権のガイド
- 3) 将来構想委員会
 - ①「助産師教育における将来ビジョン2021」に関する会員校への調査
- 4) 教育検討委員会
 - ①2025年度入学時調査概要報告及び2024年度修了・卒業時調査概要報告
 - ②2025年度修了・卒業時調査の倫理審査申請書類
- 5) 助産学共用試験委員会報告
- 6) 組織強化委員会
 - ①国際交流会企画
 - ②助産師教員キャリアラダー認定制度の案内
- 7) 広報・社会貢献委員会報告
- 8) 会計
 - ①教育事業引当資金の使途

Ⅲ. 報告事項

- 1) 助産師教育研修研究センター委員会報告
- 2) 教育検討委員会
 - ①第66回日本母性衛生学会の交流セッション開催
- 3) 助産学共用試験委員会報告
- 4) 助産師教育研修研究センター委員会報告
- 5) 組織強化委員会
 - ①ICM文書の翻訳版（2024年度分）翻訳した教育に関わる3文書とHP掲載について
- 6) 広報・社会貢献委員会
 - ①学生によるオレンジリボン運動
 - ②日本助産学会共催の学生交流会
- 7) 庶務・総務
 - ①次年度の事業計画案、予算案の作成依頼
- 8) 地区研修会
 - ①中部地区研修会 ②中国・四国地区
- 9) 全助協全国研修会（担当東京地区）

Ⅳ. その他

- ①助産学共用試験テキストの出版契約
- ②第1回日本助産実践能力推進協議会報告
- ③日本助産評価機構の助産学共用試験運営委員会との連携
- ④藤天使学園創立百周年記念式典への出席

Ⅲ. その他

- 1) 記事等執筆掲載時の依頼公文書への公印希望
- 2) ヘルシーソサエティ賞授賞式への参加報告
- 3) JANPU50周年記念式典参加報告
- 4) CM文書の翻訳版のHP掲載許可
- 5) 医療事故調査・支援センターからの情報提供
- 6) アドバンス助産師の試験要件

2025年度 第7回理事会議事次第

日 時：2025年11月24日（月・祭）13：00～16：00
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：正岡経子、安達久美子、五十嵐稔子、蛸崎奈津子、
 鈴木康江、武田江里子、谷口千絵、永松美雪、
 森聖美、渡邊浩子（10名/10名）
 出席監事：小川久貴子、島田啓子（2名/2名）
 出席幹事：藤井宏子、前田尚美（2名/2名）
 陪 席：村上 明美（助産師教育研修研究センター長）

議事内容

Ⅰ. 会長挨拶

Ⅱ. 審議事項

- 1) 庶務・総務
 - ①2025年度第6回理事会議事録（案）
 - ②2025年 各省庁への要望書案
 - ③将来ビジョン案について
 - ④2026年度全国助産師教育協議会社員総会（案）
 - ⑤2025年度 地区長会次第（案）
 - ⑥2026年度 事業計画（案）
- 2) 助産師教育研修研究センター委員会報告
- 3) 資格・専門能力委員会
 - ①第109回助産師国家試験問題の検討作業スケジュール案
- 4) 会計
 - ①教育事業引当資金の運用
 - ②旅費規程 改定案
 - ③「会計からのお願い」改定案
 - ④次年度予算案の検討
- 5) 助産学共用試験委員会
 - ①2026年度助産学共用試験CBTの受験校募集フライヤー配布

Ⅲ. 報告事項

- 1) 助産師教育研修研究センター委員会報告
- 2) 将来構想委員会報告
- 3) 教育検討委員会報告
- 4) 助産学共用試験委員会報告
- 5) 広報・社会貢献委員会報告
- 6) 助産師教育研修研究センター委員会報告
 - ①「オンライン講演会実施に関する著作権ガイドライン」リーガルチェックの委託

Ⅳ. その他

- 1) 第40回日本助産学会学術集会の企画募集

- 2) 保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会
- 3) 事業執行
- 4) キャリアラダー・レベルⅢ認証制度の審査委員

2025年度 第8回理事会議事次第

日 時：2025年12月20日（土）13：00～15：20
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：正岡経子、安達久美子、五十嵐稔子、蛸崎奈津子、鈴木康江、武田江里子、谷口千絵、永松美雪、森聖美、渡邊浩子（10名/10名）
出席監事：小川久貴子、島田啓子（2名/2名）
出席幹事：前田尚美、欠席幹事：藤井宏子（1名/2名）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2025年度第7回理事会議事録（案）
 - ②将来ビジョン案
 - ③2026年度全国助産師教育協議会社員総会（案）
 - 2) 組織強化委員会
 - ①助産師教員キャリア・ラダー認定制度外部有職者
 - 3) 会計
 - ①旅費規程の改定案
 - ②2026年度予算案の検討

III. 報告事項

- 1) 庶務・総務
 - ①各省庁への要望
 - ②2026年度事業計画案
- 2) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①オンライン講演会実施時の著作権ガイドライン
- 3) 将来構想委員会
 - ①「助産師教育における将来ビジョン2021」結果
- 4) 教育検討委員会報告
- 5) 助産学共用試験委員会報告
- 6) 広報・社会貢献委員会報告

IV. その他

- 1) 第40回日本助産学会学術集会
- 2) 日本助産実践能力推進協議会からの依頼について
- 3) 助産師の基礎教育の大学院化に向けた検討会議の依頼
- 4) 全助協教育事業引当資金の運用
- 5) 事務員の時給と賞与について

2025年度 第9回理事会議事次第

日 時：2026年1月12日（月・祝）13：41～16：07
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：正岡経子、安達久美子、五十嵐稔子、蛸崎奈津子、鈴木康江、武田江里子、谷口千絵、永松美雪、森聖美、渡邊浩子（10名/10名）
出席監事：小川久貴子、島田啓子
出席幹事：藤井宏子、前田尚美

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2025年度第8回理事会議事録（案）
 - ②個人会員入会承認
 - ③将来ビジョン案
 - ④2026年度全国助産師教育協議会社員総会（案）
 - ⑤2026年度事業計画（案）
 - ⑥事務の業務アウトソーシング導入
 - ⑦パートタイム労働者就業規則の変更
 - 2) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①職務手当について
 - ②著作権ガイドライン
 - 3) 会計
 - ①2026年度予算案について
 - ②下半期の追加請求分
 - ③旅費規程の改定
- III. 報告事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①各省庁への要望
 - 2) 教育検討委員会報告
 - 3) 助産学共用試験委員会報告
 - 4) 広報・社会貢献委員会報告
 - 5) 助産師教育研修研究センター委員会報告
 - 6) 資格・専門能力委員会報告
- IV. その他
 - ①京都科学からのCTGモニター開発協力依頼

2025年度 第10回理事会議事次第

日 時：2026年2月8日（日）13：00～15：10
場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：正岡経子、安達久美子、五十嵐稔子、蛸崎奈津子、鈴木康江、武田江里子、谷口千絵、森聖美、渡邊浩子、欠席理事 永松美雪（9名/10名）
出席監事：小川久貴子、島田啓子（2名/2名）
出席幹事：藤井宏子、前田尚美（2名/2名）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務総務
 - ①2025年度 第9回理事会議事録（案）
 - ②2025年度 地区長会議事録（案）
 - ③ 個人会員3名の入会、退会1校承認
 - ④2026年度事業計画（案）・将来ビジョン2030（案）へのパブリックコメント
 - ⑤2026年度全国助産師教育協議会社員総会（案）・フライヤー承認
 - ⑥助産師教育研修研究センター長の役員報酬：定款第2条にセ

助産師基礎教育テキスト2027年版

B5判



※2027年2月刊行予定

第1巻 助産概論・母子保健

責任編集 工藤美子
298頁（予定） 定価未定

第2巻 ウィメンズヘルスケア

責任編集 吉沢豊予子
350頁（予定） 定価未定

第3巻 助産サービス管理

責任編集 成田 伸
230頁（予定） 定価未定

第4巻 妊娠期の診断とケア

責任編集 森 恵美
232頁（予定） 定価未定

第5巻 分娩期の診断とケア

責任編集 佐々木くみ子
282頁（予定） 定価未定

第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア

責任編集 江藤宏美
256頁（予定） 定価未定

第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア

責任編集 小林康江
404頁（予定） 定価未定

新版助産師業務要覧 第4版 2027年版

B5判 編集 福井トシ子・井本寛子

※2027年2月刊行予定

助産師として求められる知識・技術を精選！
読者の立場に応じ、それぞれが必要とする内容に特化した巻構成

I 基礎編 （主に助産学生が対象）

248頁（予定） 定価未定

助産業務の根拠となる関連法規や各団体の文書に基づき、基本的知識を解説

II 実践編 （主に臨床助産師が対象）

312頁（予定） 定価未定

「助産師のコア・コンピテンシー」を構成する4つの能力を軸に、女性のライフステージ全般を見すえた助産実践に重点を置いて解説

III アドバンス編 （「アドバンス助産師」、中堅的・管理的立場が対象）

264頁（予定） 定価未定

より高度な助産実践を展開するために必要な、マネジメントや政策の視点を紹介



日本看護協会出版会

〒112-0014 東京都文京区関口2-3-1
（営業部）TEL.03-5319-8018 FAX.03-5319-7213
<https://www.jnpsc.co.jp>

コールセンター（ご注文に関するお問い合わせ）

TEL 0436-23-3271 FAX 0436-23-3272

ンター長を役員の追記

2) 助産師教育研修研究センター委員会

- ①2026年度特定分野における保健師助産師看護師実習指導者講習会の中込書変更
- ②2026年度e-learning研修：2コンテンツのセット販売、既購入者の割引価格
- ③母性衛生学会への参加希望
- ④ファーストステージの助産教育課程Ⅰ単位増

3) 会計

- ①2026年度予算案
- ②「会計からお願い」改定案

Ⅲ. 報告事項

1) 庶務・総務

- ①アウトソーシングの進捗

2) 助産師教育研修研究センター委員会報告

3) 教育検討委員会

- ①修了時調査の回収率向上のための督促
- ②入学時調査：2027年は従来の内容、2029年から新内容で実施予定

4) 助産学共用試験委員会報告

5) 広報・社会貢献委員会報告

6) 助産師教育研修研究センター委員会報告

7) 資格・専門能力委員会報告

- ①国家試験後の助産師国家試験後に問題分析の臨時理事会（メール審議）の予定

Ⅳ. その他

1) 会計

- ①会務手当および職務手当の考え方

2) 庶務・総務

- ①各委員会の活動報告書作成
- ②4月以降の理事会の日程

3) 会長報告

- ①日本看護サミット2025の参加
- ②京都科学よりCTGモニター教育機器の説明と協力
- ③全国助産師教育協議会の略称：全助協

2025年度 第11回理事会議事次第

日 時：2026年3月15日（日）13：03～15：15

場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）

出席理事：正岡経子、安達久美子、五十嵐稔子、蛸崎奈津子、鈴木康江、武田江里子、谷口千絵、永松美雪、森聖美、渡邊浩子（10/10）

出席監事：島田啓子 欠席監事 小川久貴子（1名/2名）

出席幹事：藤井宏子、前田尚美（2名/2名）

陪 席：村上明美（助産師教育研修研究センター長）

議事内容

Ⅰ. 会長挨拶

Ⅱ. 審議事項

1) 庶務・総務

- ①2025年度 第10回理事会議事録（案）
- ②2025年度 第3回臨時理事会の議事録（案）
- ③正会員入校1校、個人会員入会承認
- ④総会のスケジュール変更（案）
- ⑤2026年度事業計画（内閣府提出）（案）
- ⑥事務所移転
- ⑦アウトソーシング

2) 助産師教育研修研究センター委員会

- ①2026年度「助産師教育課程Ⅰ」シラバス案
- ②ファーストステージ研修規程の改定

3) 会計

- ①2026年度収支予算案
- ②「会計からお願い」の改定

4) 助産学共用試験委員会

- ①助産学OSCE評価者養成研修会における寄付

5) 組織強化委員会（国内・国際）

- ①助産師教員キャリアラダー・レベルⅢ認定申請申し込み書類提出期限の延長
- ②2025年度国際交流研修会後アンケート結果の発表

6) 広報・社会貢献委員会

①ニュースレター執筆依頼

Ⅲ. 報告事項

- 1) 助産師教育研修研究センター委員会活動報告
- 2) 教育検討委員会活動報告
- 3) 会計：財務会議日程
- 4) 助産学共用試験委員会活動報告
- 5) 組織強化委員会（国内・国際）活動報告
- 6) 広報・社会貢献委員会活動報告
- 7) 助産師教育研修研究センター委員会活動報告

Ⅳ. その他

- ①日本助産評価機構の役員および委員の推薦
- ②タイ王国 Princess Srinagarindra Award2026の共同推薦

編 集 後 記

今年度より助産学CBTは、日本助産評価機構へ移譲され、多くの助産師養成機関が受験していることと思います。次年度には、助産学OSCEも移譲することが決定しており、学生が臨地実習開始前に身に着けておくべき知識や技術、態度を客観的な指標で確認することが可能となりました。これらの試験を受けて実習に臨むことは実習施設においても認知されはじめ、実習を受ける施設指導者の安心材料にもなっているようです。

このように、学生の基礎学力レベルを維持し、新たな医療の変化に対応できる助産師を養成することも求められるようになってきており、助産学教員の教育力をさらに向上させる必要があると実感しております。

今回のNEWS LETTERは、助産師教員の教育力の向上・保証を図る目的で設立された助産師教員キャリアラダー・レベルⅢ認定制度についてのご報告や助産師が幅広い女性への支援が可能となるよう、現在、注目されている包括的性教育等についてご報告させていただきました。

今後とも、皆様のさらなる助産師教育の発展ができれば、このNEWS LETTERで新しい情報を発信してまいります。

井上 明子（愛媛県立医療技術大学）

木戸久美子（徳島大学）

望月千夏子（湘南医療大学）

森 聖美（中林病院助産師学院）

●助産師教育 NEWS LETTER No.98

2026年10月1日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局

Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)

会長 正岡 経子

〒160-0003

東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション201号

TEL 03-6384-2075 FAX 03-6384-2076

（月・火・木・金 事務局在室）

<http://www.zenjomid.org/>

E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

全国助産師
教育協議会
QRコード



<http://www.zenjomid.org/>
バーコードリーダーで読み取ってください